

小児科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の患者さん
またはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 造血幹細胞移植後の抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)発症とヒトヘルペスウイルス6(HHV6)感染症の関連性に関する研究

[研究機関] 札幌北榆病院小児科、北海道大学病院小児科、
旭川医科大学小児科、大分大学医学部第2内科

[研究責任者] 井口 晶裕（小児科・助教）

[研究の目的]

あなたあるいはあなたのお子さんは当院にて造血幹細胞移植(骨髄移植や臍帯血移植)をお受けになりました。移植の合併症として血液のナトリウムの値が下がることがあり、その治療として水分を制限したりナトリウムの多く入った点滴をされた方もいらっしゃるかと思います。また、一時的にけいれんをおこした方もいらっしゃいました。私たちはその際に抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)であると説明していたはずですが(お忘れになっていらっしゃるかもしれませんが)。このSIADHを引き起こした人は再発しにくいということを我々は以前に見つけておりました。一方で、赤ちゃんに起こる突発性発疹症の原因ウイルスである HHV6 というウイルスが移植の後に子どもばかりか大人でも活性化して病気を引き起こすことが知られています。私たちはこのHHV6の脳炎が原因となったSIADHの患者さんを経験し、この関係を調べさせていただきたいと考えています。移植の前にお話ししてありましたが、移植に際して血液検査を行った残りの血清を保存させていただいておりました。その血清が凍結して残っておりますのでそれを使わせていただきたいというお願いです。

[研究の方法]

● 対象となる患者さん

当科にて造血幹細胞移植を受けた患者さんで血液を保存されることについて口頭で同意された方

● 利用する検体およびカルテ情報

検体：血液検体（定期採血で採取し、検査を終了した残余分）

カルテ情報：疾患名、手術名、治療内容

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 小児科 担当医師 井口 晶裕

電話 011-706-5954 FAX 011-706-7898